

秀賞

挑戦の夏

宮城県大崎市立古川東中学校

3年 菅原 康介

今年の夏も暑い。僕が受験生というわけで、我が家のクーラーは、30年ぶりに買い替えられた。狭い平屋の一軒家に家族7人で暮らしているため、ふすまを開けっぱなしにして、新しいクーラー1台で頑張って冷やしてもらっている。僕よりクーラーの方がよっぽどやる気がある。節電対策といわれてはいるが、陸上部を引退し、体力のなくなった僕が昼も夜も家にいるのでクーラーはフル稼働である。

電気にたくさんのエネルギーをいただいておりますながら、僕の勉強へのエネルギーは今ひとつだ。今年の夏休みは、苦手な英語と社会を重点的に頑張るつもりだったが、教科書を開いているだけでまったく頭に入っていない。クーラーがついているのにもかかわらず、暑い暑いと誰もいない茶の間で言い訳してみる。平日は口うるさい母も仕事でいないので、ついだらだらと過ごしてしまうのだ。

社会の教科書をぼんやりと眺めていると、SDGsという言葉が目に入ってきた。SDGsといえば、さまざまな取り組みが行われているが、持続可能な開発目標の、「持続可能な」という部分に僕はいつもはっとする。僕が持続的にできるものは何だろう。これまで続けてこられたものを考えてみる。陸上、絵を描くこと、ピアノ、今はやっていないが筋トレだって続けられた。どうやったら貧困がなくなるのか。人や国の不平等がなくなるのか。気候変動に対する具体的な対策とは何ができるのか。そんな難しいこと僕には分からないし真剣に考えたこともない。しかしこんな僕でも持続的に努力できたことがあるのだから、具体的な目標を持って受験勉強に取り組めば、暑さにやる気をうばわれず頑張れるのではないだろうか。そうでなければ頑張っているクーラーに申し訳ない。

まずは、合唱コンクールのピアノ伴奏の練習を、しっかり時間を決めてやろう。僕は音楽が大好きだ。世の中の役に立つくらい、人を感動させられるくらいのピアニストになれるわけではないが、クラスの人々と力を合わせて合唱をつくり上げることはきっといい思い出になるし、これからの僕の自信につながると思う。

また、県の造形教育作品展に昨年も僕の絵が展示された。3年生は、夏休みの絵の宿題はないが美術の先生に「今年も描いてみない？」と言われ、「はい。

やりたいです。」と僕は答えた。ピアノ伴奏の練習もあるし、受験勉強もあるのに、どうして今年も挑戦したいのだろうか。昨年の造形作品展を見に行った時、中学生が描いたとは思えないような作品がたくさんあった。他の人たちの作品を見て、アイデアを練ったりもした。次は空想画に挑戦したいと思うようになった。

暑い中、僕は描きたい風景の写真を撮りに出かけた。頭の中で徐々に構図が出来上がっていく。描きたいものが少しずつ浮かびあがってくる感じだ。自分の得意なことくらいは全力で頑張ってみようと思った。

受験勉強に直接関係のないことだが、時間を決めて毎日少しずつ続ける工夫をしている。そうすると、だらだら勉強していたのが、時間に追われているせいで、かえって効率的に進められているような気がする。期末テストですぐに結果が出るかは分からないが、僕なりに「持続可能な」努力の夏休みを送っているように思う。

夏休みも終わりに近づき、今日も気温はこれでもかというほど上昇していく。勉強に疲れた僕はピアノを弾き始めた。家には僕一人だと思っていたのに、開けばなしのふすまから祖父が顔をのぞかせた。祖父は認知症だが、穏やかな人柄は病気になる前と少しも変わらない。僕のピアノをにこにこしながら聴いている。この夏の三者面談で担任の先生に「ちょっと難しいかもな。」と言われてしまった僕の第一志望校。祖父はその学校の卒業生だ。

僕が今感じている受験への不安や焦りを、遠い昔に祖父も感じていたのだろうか。祖父にもそんな「挑戦の夏」があったのか、聞いてみたいような気もした。祖父の部屋にもクーラーの涼しい風がもっと届くように、僕はふすまを全開にした。

この暑さが和らぐ頃には、夏の努力が実を結ぶと僕は信じている。